キラリ★話題の「ひと」

吉澤 慎太郎（しんたろう）さん
（葛生東）

○プロフィール
第14代佐野商工会議所会頭
吉澤石灰工業株式会社代表取締役会長

地域とともに 会員とともに

令和元年10月、佐野市は台風第19号により大災害に見舞われました。吉澤さんが第14代商工会議所の会頭に就任されたのは、その約2週間後でした。

台風の傷も癒えないときに、今度は新型コロナウイルス感染症が世界中を席巻し、あらゆる行事が中止となり、行政や会社が機能できなくなり市民生活はまひ状態に陥りました。

かつてない状況の中で、会頭としてどのように商工会議所を運営していこうとされているのか、お話を伺いました。

「世が平穏で経済活動が順調なときよりも、今のように会員の事業所が大変な局面を迎えるときこそ、会議所は存在意義があります」と吉澤さん。また「この局面に際し、事業継続支援や補助金の申請など、事業所に寄り添いながら職員は一丸となって対応しています」と頼もしい。

佐野商工会議所は、2161の事業所が加入しているそうです。その数の多さに驚かされますが、吉澤さんは「これは佐野市の事業所の半分にも満たない。会議所が頼りになることをもっと知ってもらい、会員加入率50％が今後の目標」とのことです。

「地域にとって必要な存在となる会議所の運営が、私の役目」という吉澤さんに、魅力ある会議所づくりをとおして、佐野を元気な勢いある街にすることにつなげていただきたいと思います。

ご夫婦共通の趣味だという陶芸はもう20年になり「作陶は心の癒し」だという。思いどおりにできたときの満足感が、次の作陶のエネルギーになっているそうです。コロナで延期となっていた仲間と開催する陶芸展が、昨年10月、地元で2度目の開催をすることができ、励みになっていると、にこやかにお話しいただきました。

（市民記者　永倉文子）

市長からのメッセージ

新たな気持ちで新年を迎えられたことと思います。

昨年を振り返ると「あたりまえ」の生活がいかに幸せで大切であるかを改めて感じた一年でありました。市民の皆さんには、一昨年の台風の災害から今日の新型コロナウイルス感染症の感染防止に至るさまざまな制約や制限に対し、ご理解ご協力いただいておりますこと深く感謝申し上げます。

今年は、コロナ禍での新しい働き方や暮らし方といった「新たな日常」への対応をしながら、誰もが夢や希望をもって安心して暮らせる佐野市に向け、明るい未来への道筋を描き、本市のまちづくりの推進テーマである「定住促進」に向けた個々の取り組みを戦略的に推進することが必要です。

今回の新型コロナウイルスの流行により、東京一極集中から地方が注目されています。この機会を好機と捉え、未来技術を活用した新たな生活様式の確立を進め、本市が持つ高速交通の利便性や環境の良さといった魅力を積極的にアピールしながら、定住促進につなげていけるよう地方創生に「挑戦」したいと考えています。

毎年、新成人の皆さんに私からの「エール」を贈っていますが、今年成人式を迎える1200人の皆さんに「新たな挑戦」という言葉を贈ります。私たちは、台風災害からの復興や感染症の収束に向け、これまでにない困難に直面し、社会の変革に取り組んでいます。新成人の皆さんには、今後社会において経験する新たな困難や大きな変化に立ち向かい果敢に「挑戦」し、自分の道を切り開いてもらいたいと思います。

これから寒さも本番となります。今一度、新型コロナウイルス感染症の感染予防を徹底し、今年が平穏な年になりますことを願います。

（12月10日　記）

岡部正英

今回の表紙　「市役所から望む日の出」　令和2年12月4日撮影

温かい朱色の光が市内を照らしながら、ゆっくりと昇りました。市民の皆さまにとって、明るい年となるよう願っております。

※市のフェイスブックでも、市内のイベントなどの様子をお知らせしています。ぜひ、ご覧ください！

素敵な１日

11月７日（土）、意外な場所でガーデンウェディングが行われました。その場所は牧親水公園でした。８月に入籍した新郎新婦のために、数人の友人がサプライズを考えたそうです。アウトドア好きな仲間のため、新郎新婦にはＢＢＱとだけ伝えて、当日公園に来るまでは結婚式のことは秘密にしていたそうです。数人のサプライズメンバーは、今回の結婚式を夏から計画していました。新郎新婦に秘密にして準備していくのは大変だったそうです。

当日は朝の８時ごろから準備を始めました。チャペルの入り口、ヴァージンロード、祭壇などを手作りし、準備が終わったところで新郎新婦にＢＢＱをしようと連絡。何も知らない新郎新婦が到着して、式が始まったのは午後２時ごろだったということでした。

結婚式では、司会者の進行のもと、新郎新婦の入場、指輪の交換、誓いのキス、婚姻届にサインなど、本格的な式が行われたそうです。

この様子を教えてくださったのは、牧親水公園の近所に住む、縫田さんやその友人。公園で何かが始まったので、気になって話を聞いてみると手作り結婚式をするということで、実際に式が始まるまで何度も様子を見に行き、式にも写真撮影で参加したそうです。

式が終わってからまた散歩をしてみると、公園はゴミ１つも落とすことなくきれいに後片付けがされていたということでした。

だれもが心温まる素敵な時間を過ごしたことでしょう。　（市民記者　尾島民江）

佐野弁 ばんざい

ちっくり（少しの意）に類音語ホックラを添えると、チックラホックラとなり同じ動作をくり返す意の方言となる

ヤットコスットコという方言があります。困難な仕事などをどうにか時間をかけて成しとげたときなどにいいます。ヤットコスットコは、共通語の「やっとこ」に、これと似た音（類音語）のスットコを添えたもので、成しとげるまでの容易ならぬさまを強めていうことばです。

「台風で流れ込んだ土砂のあと片づけが、ヤットコスットコ終わったところだよ」

前後をよく考えずにものをいうさまを「むやみ（に）」「やたら（に）」といいます。この「やたら」の後に、類音語のヘタラを添えるとヤタラヘタラとなって、はなはだしく節度の欠けていることをいいます。ただ、ヤタラヘタラをそのまま使用することはほとんどなく、普通はその省略語ヤタヘタを使用します。

「あの人たちは好きでヤッテンだから、そばで余計なことをヤタヘタいうンジャネーよ」

わずかな程度を表す語に「ちっくり」があります。このちっくりに類音語ホックラを添えると、チックラホックラとなり同じ動作をくり返す意味の方言になります。

「あれほどあった栗が、チックラホックラ食べてるうちにすっかりなくなっチャッタよ」

同じ動作の繰り返しを、トッケシタッケシといいます。いったん自分の手から離れたものを取り戻すことを「取り返し」といいますが、その変化形がトッケシです。このトッケシに類音語タッケシを添えてトッケシタッケシといいます。

「下着売り場で、女性が色や形の変わったものを手にしては、トッケシタッケシ見てますねえ」

（市民記者　森下喜一）